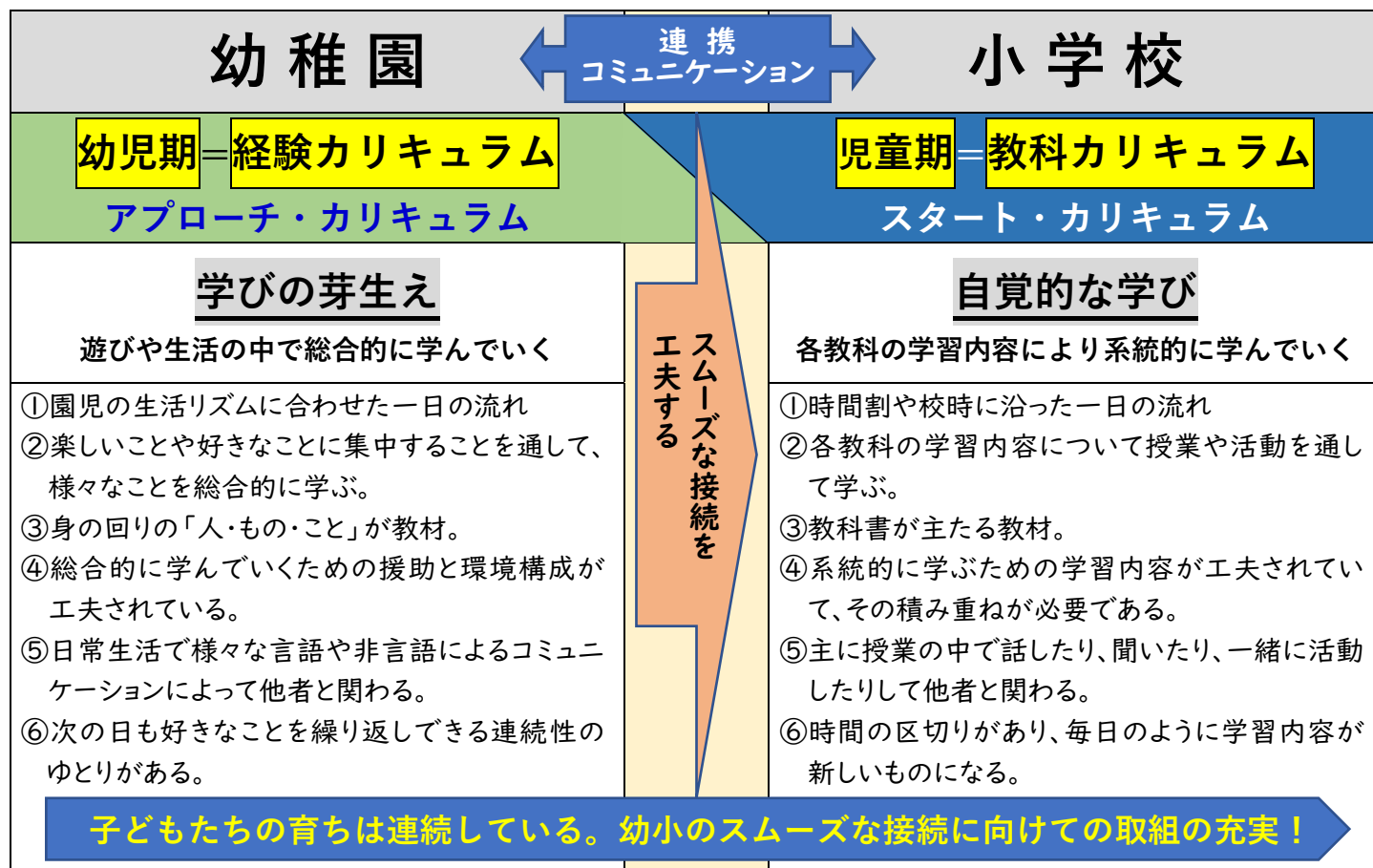


幼稚園と小学校の架け橋期カリキュラム

<幼稚園と小学校のカリキュラムの違い>



★<幼小接続を進める上での幼稚園と小学校の現状と課題> 7/15 の話し合いから

- 幼稚園の一日の活動の様子や小学校の一日の活動の様子など、お互いに幼稚園と小学校の実際の姿が分からない。活動する子どもの姿を見る機会が少ない。

→ 2学期の運動会後から11月頃に、教職員の交流として、お互いに見学し合う。
 小学校からも学年に関係なく、見学に参加できる職員はできるだけ来ていただく。
 小学校の「朝スポ」は全校で行う縦割り活動なので、ぜひ幼稚園の皆さんにも見てほしい。

- 小学校の先生は、幼稚園が進めている「10の姿」のことを知らない。幼稚園の先生は、幼稚園生活で身につけた「10の姿」がどう活かされているのか分からない。

→ 4月の交流年間計画を作成する際に、幼稚園職員が「卒園までに身に付けてほしい10の姿」について資料をもとに説明する。職員が入れ替わるので、毎年、この時に説明するのが良い。

- 幼稚園を卒園した子どもが小学校生活にうまくなじんでいけているのかを知りたい。

→ 入園当初に比べ、給食を食べる量も増え、みんなたくましくなっている。教室から飛び出していた子もその回数が減り、よく泣いていた子も泣かなくなっている。

- 香久山幼小は、毎年4月に1～5年生担任と幼稚園担任等が集まって、交流年間計画を作成している。

→ これは、次年度にもつながるととても良い仕組みなので、今後も継続してほしい。

★＜交流・接続を進めるにあたり、幼稚園が大切にしたいこと＞

(幼稚園)

- 授業時間を作って交流することも大切。→ もっと気軽に小学校に行きたい。関わりたい。



★「小学校に散歩に行こう！」

- ① 小学校に連絡を取り、支障のない範囲で、園児が小学校遊具などで遊びに行く。
- ② 小学校の校舎の中（廊下など）を歩かせてもらう。小学生が描いた絵などの掲示物を見る。
- ③ 小学校のトイレを使わせてもらう。など

★ 小学校のお兄ちゃんやお姉ちゃんたちともっと仲良くなりたい。

★幼稚園と小学校の2つの接続方法

- ① 交流でつなぐ・・・Face to Face の交流（子どもも職員も）
- ② カリキュラムでつなぐ・・・スムーズで楽しい学びの工夫

① 交流でつなぐ

1. 幼小で交流することの利点

- Face to Face の交流を通して、お互いのことが身近に感じられるようになる。

(幼稚園児にとっての交流利点)

- 交流を積み重ねて身近になることで、小学校入学に対する不安が少なくなる。
- 小学校入学を楽しみに思いながら、幼稚園生活を過ごすことができる。

(小学生にとっての交流利点)

- 関わったことがあるので、入学して来たときに優しく接しようとする。
- 部団での登下校や縦割り活動など、普段の生活で自分から関わろうとする。

2. 幼小交流の進め方

- 幼小それぞれの交流の窓口になる担当を決め、コミュニケーションを大切にする。
- Google Classroom を活用するなど、コミュニケーションや連絡・調整方法を工夫する。
※ 管理職や関係職員がメンバーに入ると、お互いに情報共有することができる。
※ 子どもたちの動画メッセージなどを相互に紹介できる。
※ 時間ができた時にメッセージを確認して返信できる。
- お互いに無理をしないで交流できるように、通常の学習内容をうまく活用する。
※ 生活科や総合的な学習の時間
※ 行事の活用
※ 給食交流
※ 小学校の空き時間などに、運動場の遊具で遊ばせてもらえるとありがたい。

※ 4月の交流では、簡単な自己紹介やじゃんけん列車、玉ねぎ掘りを一緒にして、ふれあい遊びができたので、とてもいい交流ができた。

- 他校・他園でうまく交流できた内容を情報交流する。
- 「やってどうだったか」をお互いに振り返り、翌年や次の活動に活かす。
- 担任が変わった翌年も交流が継続できるように、交流年間計画を作成して全職員で共有する。

幼稚園と小学校の交流年間計画

月	学年・職員	具体的な内容
4月	小学校担任と幼稚園職員との話し合い (1～5年生)	1年間の交流の流れについての確認と1学期の交流について、実施時期と内容を決める。 ★「卒園までに育てほしい10の姿」を説明し、共有する。
5月	「一緒に遊ぼう!」(1年生と園児)	ふれあい遊びやゲーム遊びをする。玉ねぎをプレゼントする。
7月	1年生担任と幼稚園職員との話し合い	1学期の交流の振り返り、2学期・3学期の交流について相談する。卒園児の1学期の様子などを聞く。
10月	2年生と園児	運動会の表現を見せ合う。
10月	5年生と園児	運動会の表現を見せ合う。
2学期	1年生と園児	検討中
11月頃	職員相互の見学 (New)	幼稚園や小学校でお互いの活動の様子を見学する。
11月	2年生と園児	生活科で「おもちゃランドに招く」、作ったおもちゃをプレゼント
11月	3年生と園児	牛の革のキーホルダーづくり(図書室) 幼稚園が講師と交渉
1月	4年生と園児	給食交流(図書室)
3学期	1年生と園児(半日体験)	アサガオの種送り
その他	「小学校に散歩に行こう!」 (New)	小学校に連絡を取り、支障のない範囲で、園児が小学校遊具などで遊びに行く。

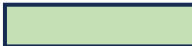
※ それぞれの機会に、事前の打ち合わせと事後の振り返りを行い、次回や次年度につなぐ。

②カリキュラムでつなぐ

幼稚園では、子どもたちが園での生活や遊びを通して、様々なことを総合的に学んでいる。このように、年間を通して、日々の学びや経験を積み重ねることにより、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿が育つように取り組んでいる。

アプローチ・カリキュラム作成については、幼稚園で総合的に学んでいる内容を「小学校への接続」という観点から、「①生活する力」、「②人と関わる力」、「③学ぶ力」の3つの力に分類し「3本柱」とした。

「香久山幼稚園のアプローチ・カリキュラム」では、さらに、以下の通りに表記し、より具体的な子どもの姿をイメージできるようにした。

	…育ってほしい子どもの姿
➤	……具体的な子どもの姿

幼稚園のアプローチ・カリキュラム（3本柱）

主な活動内容（5歳児）→一年間を通して経験を積み重ねる。学びの芽生え

①生活する力	②人と関わる力	③学ぶ力
●挨拶 ●清潔 ●食事 ●排泄 ●整理整頓 ●安全 ●見通し （基本的な生活習慣）	●共感 ●言葉による伝え合い ●協同性 ●生活のルール ●思いやり ●コミュニケーション力	●興味・関心 ●思考力 ●言葉 ●自立心 ●運動 ●自然との関わり ●文字・数・形 ●表現・豊かな感性
●挨拶 自ら挨拶や返事を進めようとする。 ➤朝や降園時に友だちや先生と進んで挨拶する。 ➤名前を呼ばれたら、返事をする。 ➤挨拶することの心地よさをみんなで共有する。	●共感 一緒に活動することで、相手の良さに気づき、お互いに認め合える。 ➤一緒に活動したり、遊んだり、触れ合ったりすることを通して友だちの良さに気付く。 ➤一日の終わりのサークルタイムで、自分の考えや気持ちを伝えることで、お互いを理解しようとする。	●興味・関心・思考力 遊ぶことや身の回りのいろいろな事象に興味を持ち、自ら進んで関わろうとする。 ➤身の回りにある事象に関わり、考えたり、予想したり、工夫したりする。 ➤自分と異なる考えに気付く。 ➤新しい考えを生み出すことの楽しさを味わう。
●清潔・排泄 健康で気持ちの良い生活ができるように心がける。 ➤毎日、手洗いやうがい、歯磨きを丁寧に行う。 ➤汗をかいたら自分で拭いたり、着替えたりする。 ➤自分でトイレに行き、排泄の処理をする。 ➤家庭の協力を得ながら、体をきれいに清潔に保つ。	●言葉による伝え合い 自分の思いや考えを言葉で表し、伝わることの喜びを味わう。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりする。 ➤自分が困ったときに、どうしてほしいかを言える。 ➤遊びや活動の後に「どうだったか」の振り返りを行い、次につなぐ。 ➤友だちともめたときに、話し合いで相手の思いや考えを聞く。	●自立心 自分なりの目標を持ち、苦手なことにも試行錯誤しながら粘り強く取り組む。（遊び込む） ➤自分で目標を持ち、やりたいことを自分で選んで行動する。 ➤あきらめずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもつ。 ➤自分の力で行うために、しなければならぬことを自覚し、考えたり、工夫したりする。

①生活する力	②人と関わる力	③学ぶ力
●食事 旬の食材を使って調理したり、味わったりする。 ➤自分たちで収穫した作物を味わって食べる。(タケノコご飯、焼いも、みそ汁等) ➤苦手な食べ物も少しでも食べてみようとする。 ➤感謝の気持ちをもって、いただく。	●協同性 友だちと力を合わせて活動し、助け合い、一緒にやり遂げる達成感を味わう。 ➤劇遊び、楽器遊び、ごっこ遊びなど一緒にやることの楽しさを味わう。 ➤共通の目的に向けて友だちと関わる中で、お互いの思いや考えを知り、充実感をもってやり遂げる。	●運動 遊びの中で体の動かし方を知り、様々な動きに挑戦する。 ➤運動遊び・サーキットなどを取り入れ、いろんな動きを経験する。 ➤体操教室やボール教室に参加し、初めてのことや苦手のことにも繰り返し挑戦する。 ➤体を動かす心地よさを感じる。
●整理整頓 自分の身の回りを清潔に保つ。 ➤気が付いたときに、自分でロッカーを片づけ、整理する。 ➤自分で着替えができ、脱いだ服をたたんで、袋に入れる ➤ほうきの使い方やぞうきんの絞り方を知り、進んで掃除をする。	●思いやり 日常生活やいろいろな活動を通して、仲間と触れ合い、優しい気持ちで接する。 ➤異年齢児と関わる中で、年長児としての意識を持ち、優しく接する。 ➤相手の立場にたって、自分はどうすればよいのかを考える。	●自然との関わり・生命尊重 身近な生き物や草花を育てたりして自然にふれ、生命の大切さに気付く。 ➤毎朝、忘れずに水やりをする。 ➤ダンゴムシやツマグロヒョウモン、オオムラサキなどの世話をする。 ➤豊富な自然体験を通して学ぶ。
●安全 自分の身を守る大切さに気付き、危険を回避できるようにする。 ➤毎月の避難訓練を通して、もしもの時に自分の身を守ろうとする。 ➤標識に興味を持ち、交通ルールを守る。 ➤交通安全教室で実際に体験したことを日常生活に活かす。	●生活のルール グループや集団で活動する時の約束やルールの大切さを知る。 ➤ルールや遊びの方法を友だちと考え、試したり工夫したりする。 ➤友だちと様々な体験をする中で、して良いことやいけないことが分かる。 ➤友だちの気持ちを考え、自分の行動を振り返ったり、共感したりする。	●表現・豊かな感性 自分のイメージしたものを表現することを楽しむ。 ➤感じたことや考えたことを自分なりに表現する。 ➤友だち同士で表現する過程を楽しむ。 ➤絵画・工作など、いろいろな材料や道具、方法で工夫して表現する。
●見通し 予定表を見て一日の流れを確認し、見通しをもって過ごせるようにする。 ➤朝の会で一日の活動の順番や内容を知り、見通しを持つ。 ➤終わった活動から、カードを裏返したり、線を引いて消したりする。 ➤自分で見通しを持ちながら生活することの大切さに気付く。	●コミュニケーション力 人と関わり、話しかけたりして、コミュニケーションを楽しもうとする。 ➤友だちの良いところに目を向け、男女分け隔てなく関わろうとする。 ➤友だちとコミュニケーションすることの楽しさを知り、一緒に話したり、活動したりする。 ●話の聞き方 目と耳と心で話を聞く。	●文字や言葉・数・形 生活や遊びの中で数えたり、比べたりすることで、文字や言葉、数量・図形に興味を持つ。 ➤しりとりや言葉集めなどの遊びや活動に興味を持ち、文字や言葉、数・形に慣れ親しむ。 ➤日常の遊びや生活の中で数を数えたり、比べたり、言葉で表したりすることを楽しむ。

年間を通した活動や遊びを通して、 幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿を育む



小学校のスタート・カリキュラムへつなぐ

★小学校のスタート・カリキュラムを作成する上での留意点

小学校では机や椅子を使い、学ぶ場所が決められているなど、入学したばかりの児童が学び方に戸惑いを感じることもあるので、45 分間学習に集中することが難しいことがある。

- 子どもたちの興味や関心に留意し、45 分授業を 10 分から 15 分程度の短い時間で時間割を構成したり、遊びを取り入れたりしながら、弾力的に時間配分することが必要である。
- 生活科の単元を中心としたカリキュラムを編成し、この単元に関連づいた内容を合科的・関連的に指導しながら、幼稚園生活のリズムから徐々に小学校生活になじめるようにしていく。
- 小学校生活のスタートにあたっては、幼児期に慣れ親しんできた活動を取り入れながら、児童が一日の始まりを安心して、楽しい気持ちで迎えられようようにする。

(1) 幼児期の発達や学びを理解する。

- ✓ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」が何かを知る。
- ✓ 保育者との意見交換や幼稚園への訪問により、幼児の発達や学びの様子、指導方法などを知る。

(2) 期待する児童の姿を共有する。

(3) 「単元配列表」や「週案」を作成して、スタート・カリキュラムをデザインする。

- ① 全ての単元を配列し、俯瞰することができる「単元配列表」を作成し、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫をする。
- ② 短い時間で時間割を構成したり、ゆったりとした弾力的な時間割を工夫する。